

通し番号	5201
------	------

分類番号	R05-35-13-01
------	--------------

<i>Stagonosporopsis</i> 属糸状菌によるプリムラ類株枯病（仮称）の発生	
[要約] 県内の鉢物生産施設においてプリムラに発生している葉枯れ、株枯れ症状の原因の一つは、 <i>Stagonosporopsis</i> 属糸状菌によるプリムラ類株枯病（仮称）である。	
神奈川県農業技術センター生産環境部病害虫研究課	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

2022年9月から10月に県内の複数の鉢物生産施設で発生したプリムラ・ジュリアンの葉枯れ、株枯れ症状の原因を調査・同定する。

[成果の内容・特徴]

- 1 観察されたプリムラ・ジュリアンでの病徴は、葉枯れ、株枯れ症状である。株枯れ症状を示す株の地際部や葉枯れ部分には、分生子殻が多数形成される(図1)。
- 2 単孢子分離した菌株KPF23-052をプリムラ・ジュリアン実生苗に接種すると、葉枯れ、株枯れの症状が再現され、葉枯れ部、地際部からは接種菌と同一性状の菌が再分離される。
- 3 rDNA-ITS、LSU、*TUB*、*RPB2*領域に基づく分子系統解析を行うと、KPF23-052は *Stagonosporopsis* 属内で単独のクレードを形成する。また KPF23-052はOA培地上で暗褐色～黒色の分生子殻を多数形成し、分生子形成細胞は垂球形～フラスコ形、大きさ $3.7\sim 8.0 \times 2.5\sim 5.1 \mu\text{m}$ で、分生子は無色、単細胞、楕円形～円筒形、大きさ $3.5\sim 4.9 \times 1.3\sim 1.9 \mu\text{m}$ であり、これらの形態的特徴は、系統樹で近縁とされた既知種と一致しない。
- 4 PDA 培地上での KPF23-052 の菌糸生育は $5^{\circ}\text{C}\sim 30^{\circ}\text{C}$ で確認され、生育適温は 20°C 付近である。
- 5 以上の結果より、2022年9～10月に発生したプリムラ・ジュリアンの葉枯れ、株枯れ症状は、*Stagonosporopsis* 属の未記載種によるものであり、病名をプリムラ類株枯病と提案する。
- 6 KPF23-052 の近縁種 *Stagonosporopsis nemophilae* の宿主であるネモフィラ、プリムラ類の育苗時期に同じ施設で育苗される可能性の高いパンジー、ビオラに KPF23-052 を接種しても、病原性を示さない。

[成果の活用面・留意点]

- 1 分生子殻からは多量の分生子が放出されること、分生子の噴霧接種により葉枯れ、株枯れの症状が再現されることから、プリムラの生育期には分生子の飛散により蔓延すると考えられる。この病害に登録のある農薬は無いため、発病が認められた株は施設外に持ち出し、適切に処分する。

[具体的データ]



図 1 県内の鉢物生産施設で発生したプリムラの株枯れ症状と、地際部（中央）、葉（右）の分生子殻

[資 料 名] 令和 5 年度試験研究成績書
[研究課題名] 病害虫診断同定及び診断同定技術の開発
[研究 期 間] 2022(令和 4)年度～2023(令和 5)年度
[研究者担当名] 島田涼子・蓑島綾華
[協力・分担関係]